

総括質疑 予算特別委員会

予算特別委員会では、2月25日、26日の2日間、18人の委員が予算全般について質疑を行いました。

平成31年度

予算を問う

一般会計歳入歳出予算に対する付帯意見

- 区民費中「旧中野刑務所正門学術調査」については、迅速かつ多角的な調査・検討を行い、議会の理解を得た上で、平和の森小学校新校舎等整備に支障を来さないよう努めるとともに、良好な教育環境を確保されたい。
環境費中「森林環境譲与税活用事業」については、中野区地球温暖化防止条例の目的に即して、なかの里・まち連携自治体を中心に、議会への報告と十分な議論を経たうえで、進められたい。
基本構想改定の検討に当たっては、現状で想定される10年間の財政フレームを議会に示されたい。
新区役所整備については、今後の資金調達も含む財源を議会に示し、理解を得たうえで執行を行われたい。
平和の森公園再整備工事については、工事の中断、延伸等により生じた補償額及び損害額等の議会への報告を誠実に行われたい。



平和の森小学校整備予定地に不要な旧中野刑務所正門



自由民主党議員 伊東 しんじ

平成30年10月の厚生、子ども文教両委員会の資料で示された学識者への意見聴取の結果報告概要では、門は東京都の指定文化財になり得ることだが、議事録には同様の発言の記載がないのはなぜか。また概要では、現地保存以外では文化的価値は低下する等の記載があるが、議事録にはない。公式発言ではないのか。

委員報告の時点では、門が建築物か工作物の判断が定まっておらず、建築物との前提で敷地分割が必要と考えていた。その後の検討により、門は工作物と判断し、建築基準法上は一つの敷地とみなして計画している。

まちづくり用地の学校用地への転用

まちづくり用地を平和の森小学校の学校用地として当分の間活用することだが、周辺の防災まちづくり事業に支障をきたさないのか。平和の森公園地区計画に關係する方々に対しては丁寧な説明をしながら、今後のまちづくりの中でしっかり進めて行きたい。

区の財政運営



公明党議員 白井 ひでみ

平成31年度予算案は、一般会計152.1億円余、予算総額は226.9億円余と過去最高の予算規模となったが、来年度以降の見通しは、学校改築計画のピークである34年度に向けて、拡大の見通しである。30年度の予算編成では、学校の改築に起債を行わない借金はしないとしたが、今年度から起債を行うのはなぜか。

委員会で説明はしたのか。報告はしていない。区役所・サンプラザ地区の再開発で生み出される財源の見通しは、6月頃に示す予定である。新庁舎建設の総事業費は、区役所・サンプラザ地区の再開発から生み出される財源で全てを賄い、区債を活用しない従来の考えを堅持するのか。現在検討中である。予算案と併せて財源につ

どのような方に対象を拡大すべきかをしっかりと検討検証したい。災害時の情報伝達手段として、デジタルサイネージ導入の再構築を図るべきでは。システムの整合性や最新状況、他自治体の取り組みなどを参考に検討したい。

中华民国台北市 中山区への 中野区友好調査団に 区議会議員を派遣

台北市中山区との交流を進めるため、実務的な内容について協議を行う中野区友好調査団に、平成31年1月29日から1月30日までの日程で6人の議員を派遣しました。



日本共産党議員 羽鳥 だいすけ

第二次学校再編計画

鷺宮小・西中野小の統合新校の位置を、第八中学校の敷地に決めた理由は、通学区域のほぼ中央であり、鷺宮小・西中野小より校地が広いためである。新校の整備基本計画案によると、八中は校地が2つに分かれる上、段差もある。児童への負担や安全性の懸念があるが、どう対応するのか。

鷺宮西住宅の建て替えによる人口増加が予想される。影響を見極めるまで再編計画を一旦とめるべきでは。校舎は築後50年以上経過しており、この時期の統合・更新が必要と考えている。児童数は当初、区全体で8674人推計だったものが、実際は679人増の9353人となっている。計画を前提とせず、学校再編計画を見直す必要がある。「中野区教育行政における区民参加に関する条例」の第3条を活用し、統合についての対話集会を開くなど、改めて区民の意見を聴く場を設けてはどうか。



区内で、都市計画の素案発表後に、構造形式まで変更された事例はあるのか。把握していない。(次頁へ続く)